

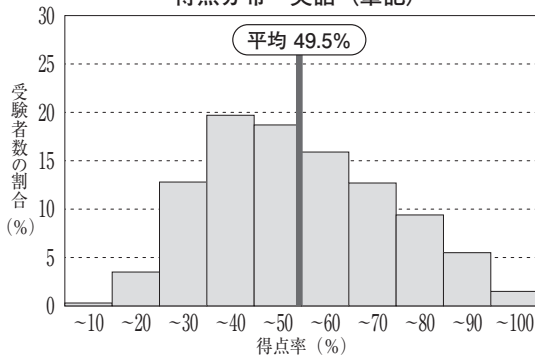
英語 (筆記)

文法学習を中心として基礎を固めよう。

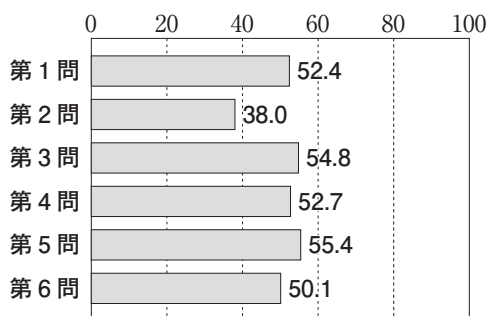
I. 全体講評

本年度のセンター試験は、昨年と比較して特筆すべき大きな変化は見られなかった。当然ながら、今年のセンター試験本番レベル模試も近年の傾向を踏まえて問題を提供していくことになるだろう。その第1回目の結果であるが、受験学年の平均点は99.0点で、ほぼ予想されたレベルにあった。これを出発点として、来年度の本番を迎える頃には大きく成長してほしい。受験生諸君は各回の成績の変動にあまり神経質になるのではなく、自分の弱点を確かめながらその部分を重点的に復習し、次回のテストに備えることが大切である。そのようにして地道に努力していけば、最終的には必ず本物の得点力が身につくであろう。

得点分布 英語 (筆記)



大問別得点率 (%)



II. 大問別分析

第1問 発音・アクセント

基本ルールと頻出語を覚えよう！

センター試験の第1問は基本的な出題形式を採用している。Aの発音問題が3問、Bのアクセント問題が4問である。今回の第1問の得点率は52.4%で、全体としては平均的な出来であった。内訳を見ると、Aが49.6%、Bが54.5%と、発音問題の方がやや不振であった。小問ごとの正答率では、Aに20%台、Bに30%台の箇所が1つずつあった。その1つはAの問3で、thの発音に関する頻出問題であった。正解の④ tenth と① clothing、② northern、③ smoothの違いは基本知識として覚えておかなければならない。Bの問1は2音節の単語のアクセント問題だが、単純そうに見える割に正答率は伸びなかった。ここでの選択肢もよく出る単語ばかりなので、アクセントの基本ルールと同時に頻出単語を覚えていくようにしたい。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

なるべく早期に文法の基礎を固めよう！

第2問の得点率はちょうど38.0%で、すべての大問の中で最も低かった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が47.1%、Bの整序問題が43.2%、Cの応答文完成問題が21.7%だった。Cでの不振が大きく響いたことがわかる。Aに関しては、小問ごとの正答率がばらつく傾向があるが、今回は正答率が20%台に終わった小問が2つ、20%台に終わった小問が4つあった。また、Bの整序問題では問2の正答率が最も低かったが、ここでも think of A as B という定型表現がポイントになっていた。最大の問題点であるCの応答文完成では、問1と問3の正答率が20%弱で大きく足を引っ張った。ここでは確実な文法の知識が欠かせない。文法の知識は第2問全体の成績に大きく影響するだけでなく、読解問題征服のための基盤をなすとも言える。この分野に不安のある人はぜひとも早いうちに対策を講じてほしい。

第3問 文脈把握 (対話文空所補充・文削除・要約)**文章の種類を問わず、文脈把握力を高めよう！**

センター試験の第3問は、一昨年から不要文削除と要旨選択の問題のみになった。このパートの出題意図は、ひとまとまりの英文を与え、その全体的な文脈を読み取る力を試すことである。今回の第3問全体の得点率は54.8%で、まずまずの出来と言ってよいであろう。内訳を見ると、Aの不要文削除が52.1%、Bの意見要旨選択は57.0%と、バランスも取れていた。小問別の正答率も約40%から70%の範囲内で、極端に不出来な箇所はなかった。間違えた箇所があれば、各自解説を参照しながら見直してほしい。説明文でも、口語文でも、ここで試されるのは文脈把握力である。日頃から文の流れや重点内容を意識しながら読むことを心がけよう。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り細部の読み取りに十分な注意を！

今回の第4問の得点率は52.7%で、これもまずまず無難な成績であった。グラフを含む説明文を素材としたAについては、全体の平均が49.5%、広告文書を素材としたBは56.0%と、大きな差はつかなかった。小問の正答率を見ても、ABを通じて40台から約60%と安定していた。ここはセンター試験に特有の形式であり、細部の情報の読み取りには十分な注意が必要である。とりわけBの場合は本文の該当箇所が特定しやすいので、あとはそれをいかに正確に読み取り、いかに厳密に選択肢と照合するかにかかっている。今後はこの形式に慣れるとともに、精読の訓練も怠らないようにしたい。

第5問 物語文の読解**ストーリー性のある英文に親しもう！**

センター試験の第5問には、やや風変わりなストーリーが使われることも過去にはあったが、今年の素材文は日常的な内容であった。いずれにせよ、文章スタイルや設問形式は以前から本質的に変わりが無い。ストーリー性や主観性に重点を置いた素材文に慣れ親しんでおくことは今後も重要であろう。今回の第5問は全体の得点率が55.4%で、すべての大問中で最高であった。小問別正答率を見ると、30%台後半から70%台前半とややばらつきが見られた。最も低かったのは問2で、第2段落の最後の部分の主旨がつかみにくかったようだ。また、例

年のことであるが、このあたりから無回答率が徐々に高くなっている。終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答できたかが問われることになるだろう。

第6問 説明的文章の読解**時間配分や解答の順序も考慮しよう！**

例年出題される説明的な文章を素材とした内容一致問題である。今回の得点率は50.1%だった。小問別正答率は、40%台から60%台後半の範囲で、特に不出来な箇所もなかった。ただし、無回答率が4%台から約7%にまで及んでいるのが目立った。まだこの段階では全問を解くだけのスピードが身につけていない受験者が多い。効率を考えると、Bの空所は本文を読み進める途中で、随時埋めるようにして行くのが得策である。時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。今後効率のよい解き方を覚えるにつれて、この最後の大問でも得点を伸ばしていくことが期待される。

Ⅲ. 学習アドバイス

今回は第1問・第2問についてアドバイスを述べておこう。第1問の発音・アクセントの分野については、母音字と子音字が表す基本的な音声は中学英語で学習済みのはずである。センター試験の対策としてはその基本に多少の肉付けをして、出題頻度の高い単語の発音を優先して覚えたい。その際にはぜひ音読を心がけよう。また、アクセントでは特に語尾の形でその位置が決まるケースも多く、これらの規則を覚えることも必須である。ただし、その際にも字面のみを見て覚えようとするのではなく、必ず声に出して覚える習慣をつけてほしい。

第2問では文法・語法・語彙など多面的な力が試される。文法については、教科書や標準的な問題集を通じて知識を定着させておくことが必要である。文法の力は、Aの文法問題だけでなく、Bの整序問題や、Cの文完成問題でも問われることになる。この分野の対策は早いうちに取り組んでほしい。熟語や語法も第2問で重要な位置を占める。それらについても、基本的なレベルは問題集などでカバーできるが、完璧を期することはなかなか難しい。その意味では、語彙力アップを兼ねて、なるべく多くの英文を読むことを心がけるのが得策であろう。